

# Frente

三重県男女共同参画センター  
フレンテみえ  
フレンテとはスペイン語で  
「前向き」という意味です。

vol.69  
2017.5

大特集  
Report!

「逃げるは恥だが役に立つ」原作  
海野つなみ × 那須田淳

「逃げるは恥だが役に立つ」

TBSドラマプロデューサー

トークセッション

～さまざまなたの幸せのカタチ～

「あなたの幸せのカタチは？」

## 予告

- フレンテまつり
- 三重県内  
男女共同参画連携映画祭2017 など

## 新連載

- 朗読文学サークル パティオ主宰  
河原 徳子さん  
「女性と文学」  
第1回「不屈のワーキングマザー 与謝野晶子」
- 前三重県男女共同参画審議会会長  
佐伯 富樹さん  
「三重県の男女共同参画の最近の動きと、これから」



# 「逃げるは恥だが役に立つ」

～さまざまな幸せのカタチ～

5月6日に漫画「逃げるは恥だが役に立つ」(以下『逃げ恥』)作者海野つなみさんとTBSプロデューサー那須田淳さんによるトークセッションを開催しました!前半では、作品の生まれたきっかけやドラマのキャストの理由、そして大ヒットしたことへの想いなどを語っていただきました。ここでは作品中の名言やテーマについて、お伺いしていった後半のお話しをお届けします。

**Q** みくりと平匡の『仕事としての契約結婚』は、世の中に衝撃を与えたと思いますが、このような夫婦の在り方を作品で描いていこうと思ったのはなぜでしょう。

**海野 つなみさん**(以下、海野):

契約結婚をテーマにする以上は、仕事と結婚の二つの話だと思っていました。なのでこの二つについて入れられることは全部入れようと思っていました。『逃げ恥』は「仕事」の作品なので、みくりちゃんの恋愛が成就して終わるというのではなく、「仕事」が成功して終わるようにしようと考えていました。

**那須田 淳さん**(以下、那須田):

ラブストーリーは、出会う→うまくいかない→最後に結ばれるor結婚、という基本パターンがあるのですが、そういったパターン化されたラブストーリーはだんだん作りづらくなってきています。この作品は出会っていきなり結婚というものなので、同じ屋根の下で早々からムズキュンが展開され1話から面白さのピークがある設定だったなと思います。それに契約結婚という設定のため、二人がよく話し合います。最後に行き着く先は「雇用関係」ではなく「共同経営責任者」というのは、本来であれば夫婦できちんと話し合えば早々に行き着く考えなんでしょうけれど、仲の良い夫婦であればあるほど語り合うことを後回しにしがちなことです。ドラマで家事のことなど真剣に話し合う姿を映したのはよかったし、そういうシーンをご夫婦で一緒に見るというシチュエーションをお茶の間に作ることも意味があったのではないかなと感じています。語り合わずとも、一緒に観ていることで、そういうテーマを家族で共有できるわけですから。家事にしても仕事にしても、これまで後回しにしがちなテーマを二人が丁寧に話し合う。その姿が見ていて楽しい、というのが作品を受け入れていただけたところなのかなと思っています。

**Q** みくりは「小賢い女」を気にしていたり、百合は「誰からも選ばれない人生ってつらいわよ」と感じていたり、そして周りに壁をつくっていた平匡など、それぞれの人物が悩みを持っていて、キャラクターの自尊心や自分自身を守るための自意識の壁が漫画の中で重要な意味を持ったものとして描かれていますね。

**海野:**

自尊心についてはみんなが心当たりのあることかなと思っています。孤独を感じたことがない人はいないでしょうし、孤独があるから壁を作ってしまう、壁を作るからさらに孤独になる…。生きている人たちみんなの問題として入れていきたいなと思いました。

**那須田:**

自分が誰かに必要とされたい、という思いや自分に自信を持ってないというのは誰にでもある感情だと思いますが、自尊心という言葉は私自身もこれまであまり聞いたことはなくて使ったこともなかったので、新鮮な言葉で面白いなと思いました。こういう小難しいことを小難しい言葉で語るときにはすごく丁寧に語りあわないと伝わりません。複雑なことは複雑なこととして捉える。ちょっと難しいことを丁寧に描くことで、きちんと語れるし思いも伝わる、そして、それ自身がコメディとして映り、見ていて楽しいのでそこがこの作品の面白いところになったと思いました。あと「好きの搾取」などで出てくる「搾取」という言葉をうちの20代の社員が読めなかったんですよ。この「搾取」という現象は日常の人間関係の中にもあって、そして自分たちがこの「搾取」について無関心であることはよくない。相手の側に立って物事を考える姿勢の大切さですね。作品の中で「好きの搾取」「善意の搾取」とこの問題をこの言葉で切ったのが爽快だなと思いました。

**Q** 若さにこだわる五十嵐安奈に対して、百合が「そんな恐ろしい呪いからはさっさと逃げてしまおうことね」と告げるシーンがありました。女性は若いほうがいい、という価値観が多くある中で、百合に「呪い」というセリフを使わせていましたね。

**海野:**

世の中にはそういった「呪い」のようなものはたくさんあって、それは女性に限りません。例えば親からだってありますよね。何かを背負わされてしまうことって男女問わず、年齢限らず





たくさんあると思っていたので、最後に五十嵐さんと百合ちゃんの対決を描こうと思ったときに、どっちかがどっちかを説教する、という話では終わらせたくなかったんです。百合ちゃんの言葉で、五十嵐さんにも「言われてみたらそうかもしれない」と感じて欲しかった。そして登場人物の中で一番年齢を気にしていたのは、実は百合ちゃんでした。みくりちゃんたちよりも年齢が上で、どうしても女はこうすべき、男はこうすべき、と言われる中で育ってきたので、一番年齢を気にしている人がこの言葉を言うことが、自分自身の気づきにもつながると思ったので、言った方と言われた方のどちらかが上でどちらかが下、というのではなく、お互いの気づきという意味で描けるかなと思っていました。

**Q** 海野さんがおっしゃるとおり世の中にはいろんな「呪い」があると思います。この「呪い」から逃げる方法ってあるのでしょうか。

**海野：**

やっぱり「背負いすぎないこと」じゃないでしょうか。「こういうものなんだ」という考えにとらわれてしまうと、いろんなものを背負わされてしまっただけで動けなくなってしまいます。いろんな「呪い」が降ってきたとしても、これはできる、これはできないと決めて、できないことには逃げてしまえばいいし、荷が重いけどこれはやらなきゃ、と思った時にはきちんとやればいい。「こういうものだから」と考えることを放棄することは楽ですし、できなかった時に「だって私はダメな人間だもの」と言ってしまうのも楽です。誰のことも傷つけずに自分だけが傷つければいいから。それも一つの逃げ道とは思いますが、そういうことばかりだと本当に自分がダメになってしまうし、しんどくなってしまうので、そこからは逃げ出してほしいと思います。

**那須田：**

自分の中で窮屈になってしまうことから逃げる方法としては妄想だと思います。人生はゴールだけを考えても途中でいろんなことが起こるので、こういう時にはこんな風に逃げたい、そして逃げた先ではこんな風につながるんじゃないかと、自分の中で道筋を作ればいい。その時自分がつらくて悲劇のヒロインだったとしてもいいんです。だって物語に出てくるヒーロー、ヒロインはみんなどこかで挫折するんですから。そこからどうしたらプラスに転じるんだろうというように、自分の物語を自分で作っていけばいいのではないかと思います。そしてその物語の答えは一つだけではありません。

**海野：**

妄想をすると客観的に見れますよね。一步上の世界から、自分のことなんだけど、全体を見ることができます。

**那須田：**

あとはいい言葉に出会うことですよ。自分の状況を見て「あ、これは好きの搾取だな」と気づくことができれば、もやとした感情も理解できます。あと、このドラマの好きなところは語り合うところですよ。語り合うことは大事ですし、自分の中の自問自答が物語になったりすることもありますし。僕も20年前にこの物語を知っていれば妻とももっとうまくやれたのかもな、と思います(笑)。

**Q** シングルマザーのやっさん、同性愛者の沼田さんなど、これまでの社会の常識の中では受け入れられにくかった人たちも、とても生き活きと活躍していると感じました。作品全体を通して伝えたかったことはなんですか。

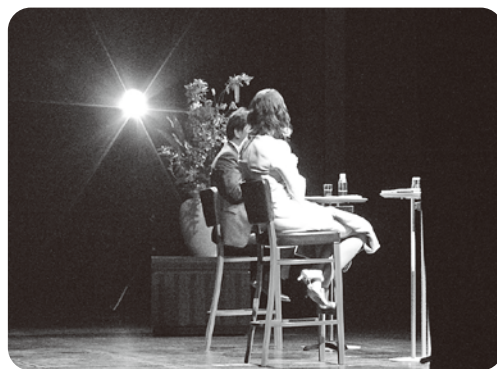
**海野：**

自分は普通に暮らしているし、なんの偏見もない、と思っていても、ある日突然普通じゃないことが降りかかってくるものです。それは自分の親だったり子どもだったり友だちだったり、周りの人だったり、病気だったり、災害だったり、事故にあったりと色々な理由で普通じゃないことに遭遇することはあります。例えば、ある日突然自分の子どもに同性の人と結婚したい、と言われるかもしれない。それを「そんな普通じゃない」と言わないようにした方が、お互い幸せだと思うので、そういう考えを持つためのきっかけになればと思います。

**那須田：**

僕は仕事上、映画やドラマを作っていますが、映画やドラマは決して正解を教えてくれたり観せてくれるわけではないのに、どうしても心に残っていくんだろうと、昔はそれこそ「なんのためにあるのか?」と聞かれたときになんて答えたらいいんだろうかと考えていました。『逃げ恥』もみくりと平匡は恋人であり夫婦であり、その先に家族の物語につながっていくと思いますが、人生に正解はないですし、生きていく中では何が正解で何が間違いということはないと思います。自分たちが選んだ道で、より幸せになるためにはどうしたらいいのか、という過程を考えていくのが大事だと思っています。

さっきの「呪い」じゃないですけど、人生に正解はなく、自分で選んだ道が正解です。それはどんな物語でどうしたらもっと幸せに近づけるのか。そういうことのなんとなくのヒントをお伝えできるのが映画とかドラマをやっている意味なのかなと思っています。



掲載しきれなかった内容はホームページにて公開予定です。ぜひご覧ください。

フレンテみえ

検索

# 7/2 フレンテまつり 2017

with イザ!カエルキャラバン!

フレンテまつりはフレンテみえ登録団体の活動発表・交流の場として毎年開催しており、ステージ発表や団体の活動展示、フリーマーケットや体験ワークショップなど誰でも気軽に楽しめる内容が盛りだくさんのイベントです。

昨年度から、「防災」について親子で楽しく学べる「イザ!カエルキャラバン!」のブースがフレンテまつりに仲間入り。

災害時には、より一層「男女共同参画」の視点が大切になります。楽しく体験しながら、男女共同参画について、防災について、この機会に考えてみませんか?ぜひご家族・お友だち、みなさんでお越しください。



※写真は去年の様子

## かえっこバザールも開催!

～家にある「つかわなくなったおもちゃ」を「ほしいおもちゃ」と交換しよう!～



当日、フレンテまつりの各ブースに参加したり、家に眠っている「つかわなくなったおもちゃ」を持ってくると内容に応じた「カエルポイント」をためることができ、たまったポイントを使って「ほしいおもちゃ」と交換する「かえっこバザール」に参加できます。

子どもと、子どもの心をもった大人なら誰でも参加OK。お子さんやお孫さんにもぜひお声かけください!

企画協力:NPO法人プラス・アーツ

日時

2017年7月2日(日)  
10:00～15:30

会場

フレンテみえ  
知識の広場

## 三重県内 男女共同参画 連携映画祭 2017



三重県の男女共同参画をもっと身近に感じていただくため、「映画でみつけよう! 男女が共に生きるヒント」をテーマに、5つのセンターと21市町が連携し、県内各地20会場で上映します。

11年目を迎えた今年も、昨年話題になった作品や、懐かしい作品まで13作品を上映し、心にしみ入る人間ドラマや、自分らしく生きることの意味を考えさせられる話題作など、性別に捉われない生き方のヒントが得られるような映画を上映します。

会場では、映画を見る際のポイントを解説するプレトークやアフタートークなどのイベントで、内容をより深めることができます(一部の会場で実施)。

「フレンテみえ」では、各会場のチケット販売や予約等を受け付けます。またお近くのチケット取扱い場所もご案内いたしますので、お気軽にお問い合わせください。皆様のご参加をお待ちしております!

### 今年の上映スケジュールは?

主催市町	開催日	上映作品
志摩市	5/21(日)	オケ老人!
朝日町・川越町	6/4(日)	オケ老人!
亀山市	6/18(日)	ペコロスの母に会いに行く
津市	6/24(土)	ムーラン
四日市市	6/24(土)	これが私の人生設計
鈴鹿市	6/24(土)	この世界の片隅に
鳥羽市	6/24(土)	はなちゃんのみそ汁
いなべ市	6/24(土)	マイ・インターン
多気町	6/25(日)	海よりもまだ深く
桑名市	7/1(土)	はなちゃんのみそ汁
菰野町	7/1(土)	アリスのままで

主催市町	開催日	上映作品
明和町	7/1(土)	愛を積むひと
松阪市	7/8(土)	箱入り息子の恋
南伊勢町	7/8(土)	あん
伊勢市	7/9(日)	この世界の片隅に
紀北町 (東紀州地域共催)	7/9(日)	海よりもまだ深く
東員町	7/23(日)	箱入り息子の恋
大台町	7/23(日)	女たちの都〜ワッゲンオッゲン〜
名張市	8/5(土)	この世界の片隅に
伊賀市	9/9(土)	女たちの都〜ワッゲンオッゲン〜

フレンテみえホームページでも最新情報をご覧ください。

フレンテみえ

検索

6/8

## 育休ママのつどい

子どもができたあなたへ

### 育休中に描くママのこれからの働き方

現在産休・育休中のママたちが集まって、育休復帰後の仕事と家庭の両立についての不安や、これからの自分の働き方について話しあうミニセミナーです。「先輩ママはどのように仕事と家庭を両立しているの?」「子どもが急に熱をだしたらどうするの?」「母親が働いて家にいないと子どもに寂しい思いをさせるのだろうか…」など、不安や疑問がいろいろあるかもしれません。

子育てしながら働くことは、けっして悪いことではありません! 少しの時間“子育て”から離れ、働くママ同士「自分自身のこと」について話してみませんか。

日時 6月8日(木)  
10:00~12:30

会場 情報コーナーレクチャースペース

定員 10名

対象 現在産休・育休中の女性  
または取得予定の妊婦

7/13

## 結婚生活が息苦しい・・・

### モラハラについて考える

### Part.1

「殴られたり蹴られたりしていないから、暴力ではない。」と思いませんか? 殴る、蹴るだけが暴力ではありません。「怒鳴る」「ののしる」「無視する」などの行為はモラルハラスメントと呼ばれ、精神的な暴力の一つです。夫からいつどんなことで怒られるかわからず、いつもビクビクしていたり、自分の思うことを言えなかったりしているうちに、いつのまにか「悪いのは自分だ」と思うようになっていませんか?

この講座はモラルハラスメントについての正しい情報を知り、なぜ夫の言動から息苦しさを感ずるのか考えることを目的として行います。

日時 7月13日(木)  
13:30~15:30

会場 三重県総合文化センター内  
(詳細は参加者にのみお知らせします。)

定員 8名

対象 テーマに関心のある女性

※この講座は同じ内容で2018年2月7日にも実施します。

## フレンテみえ相談室で

## 「LGBT電話相談」を新設します

毎年5月17日は“多様な性にYESの日”。この日に合わせて、フレンテみえではLGBT電話相談をスタートします。

同性愛や性同一性障害などの当事者割合は約13人に1人(電通ダイバーシティラボ「LGBT調査2015」による)とも言われていますが、「性のあり方」は多様であるにもかかわらず、根強い偏見があります。その中で、「自分の性を打ち明けづらい」「どこに相談をしたらよいか分からない」という悩みを抱える人が多いのが現状です。

そこで、三重県内の公的相談機関としては初めて、LGBT専門の電話相談を開設します。

「こころの性とからだの性が一致せずに悩んでいる」、「同性が好きであることを話したい」など自分自身の「性のあり方」についての相談をお受けします。また、ご本人だけでなく周囲の人からの相談もお受けします。

相談は無料。秘密厳守で行います。お気軽にご利用ください。

### 相談開設日時

初回 平成29年5月17日(水)  
13:00~18:00

以降、毎月第3金曜日13:00~19:00  
※平成29年5月に限り、月2回開設します。  
(5/17(水)13:00~18:00、5/19(金)13:00~19:00)

### 2017年度実施日

2017年5/19、6/16、7/21、8/18、9/15、10/20、11/17、12/15  
2018年1/19、2/16、3/16

LGBTとは、  
L:レズビアン(女性の同性愛者)、G:ゲイ(主に男性の同性愛者)  
B:バイセクシュアル(両性愛者)、T:トランスジェンダー(生まれた時の法的・社会的性別とは違う性別で生きる人、生きたいと望む人)のことで、これら4つに含まれないセクシュアリティもあります。

# Event Report

## みんなでつくるフレンテ交流会 フレク! Frente-Recreation

日時 2月11日(土祝)  
11:00~13:30

フレンテみえは、およそ120の登録団体と500名の個人登録者によって支えられています。それぞれの団体さんの活動や「関わる人」についてもっと知ってもらえたらと、昨年リニューアルしたフレンテ交流会。今年は39名の参加があり、子ども、若いソパママ、年配の方まで、幅広い世代の人たちがそれぞれの活動の話をし、「お餅つき」を通して交流を深めました。

「家族以外の親世代の方と話すことがなかなかなく、刺激もらった」「若い人がいろいろな活動をしていることを知って感心した」等の声が聞かれ、温かい雰囲気の中、新しい輪の広がりが感じられる会となりました。



## 「男は泣くな」はもう古い! イケメン男子はじめませんか

日時 2月25日(土)  
17:00~19:00

「最後に泣いたのはいつですか?」そんな問いかけから始まったこの講座。集まった男性たちからは泣いたのはずいぶん前、という声が多数聞かれました。

そんな男性たちに、短編の動画をみて涙を流す「涙活」を体験してもらいました。

普段、自分の弱み姿を見せる事に抵抗のある男性たちに、涙を流して得られるストレス解消効果を体感していただき、辛いときには男だって泣いていい、弱音を吐くのをおぼろげなくいい、ということを実感していただきました。



情報誌「Frente」  
ミニコラム  
連動企画

## チェンバロで聴く「女性と音楽」ミニコンサート ~クラシック音楽界での女性史~

日時 2月26日(日)  
11:30~12:30

今年度本誌で4回にわたり掲載した「女性と音楽」コラム最終号発行にあわせ、情報コーナーでミニコンサートを開催しました。地元で音楽活動をされているお二人の演奏家をお招きし、素敵なチェンバロの生演奏やピアノの響きとともに、コラムでとりあげた女性音楽家にまつわる曲を、解説付きでご紹介しました。

はじめてのロビーコンサートでしたが予想を大いに上回る128名のお客様にご来場いただき、「音楽をただ楽しむだけでなく、いろいろ考えさせられた」との感想が聞かれる等、「女性だから」と活動や才能を認められない中、音楽を愛し、懸命に生きた女性たちに思いを馳せる機会となりました。



## スイーツ男子第1弾 英国式アフタヌーンティの巻

日時 3月11日(土)  
14:00~16:30

甘いものが好きな男性=スイーツ男子。いまだ「男なのに甘いもの好き」と肩身の狭い思いをしがちです。そんな皆さんに、「男性だから」と甘いものが好きな自分への抵抗感をなくしてもらうための交流イベントを開催しました。

10~50代までの幅広い年齢層の参加者が、スコーンとフルーツサンドを手作り。その後、温かい紅茶とともにいただきました。

参加者のなかには「家でも作ってみたい」「ぜひ第2弾を!」と話す方も。男らしさより自分らしさを大切に思っていただけのように感じられたイベントでした。



第1回

# 「不屈のワーキングマザー 与謝野晶子」

河原 徳子(朗読文学サークル パティオ主宰)

歌人・詩人・童話作家・評論家としての与謝野晶子を知らない日本人はいないでしょう。でも、晶子が11回の出産を経験して13人の子どもを産み(双生児が二組です)、無事に育った11人の子を持つ母親だったことはあまり知られていません。それも、かつては人気歌人だった夫の与謝野鉄幹が歌人として売れなくなった時、家計を全部支えて働いた母なのです。まさに、ワーキングマザー！



夏目漱石は女弟子が少ない文豪でしたが、森鷗外は、樋口一葉や平塚らいてう、与謝野晶子たち女性の才能を公平に認めた人です。鷗外が晶子の才能を認め、慶応大学の教授に推挙したことは有名です。

私は『源氏物語』を原文で読む講座を十年間続けているのですが、「与謝野源氏」の素晴らしさは今更言うまでもありません。読むたびに、晶子の古典文学の教養の豊富さと深さを感じ入っています。

晶子の作品で一番有名なのは、鉄幹との結婚直前に出版した『みだれ髪』でしょう。

「その子二十櫛に流るる黒髪のおごりの春の美しくきかな」「やは肌のあつき血潮に触れも見でさびしからずや道を説く君」などを声に出して読むと、恋愛を謳歌する大胆なロマンチズムに、フラフラに酔ってしまいます。



鉄幹との結婚も、事実婚だった前妻を押しのかけてのことでした。スタートから、並の女性が平穏な結婚をするのと比べると、かなり革新的です。その後、歌人としての人気を無くし、そのくせ浮気もし、晶子にお金を稼がせた鉄幹ですが、

「それでも晶子は最後の最後まで、夫鉄幹を愛しぬいた」……と、文学史には書かれています。渡辺淳一が「晶子には、初めからなり振りかまわぬ強さと甲斐甲斐しさがあった」と指摘していますが、私もその通りだと思います。女にもてたプレイボーイの鉄幹は、面倒見の良い甲斐甲斐しい晶子に惹かれたのでしょう。これは夫婦の在り方として考えさせられるパターンです。

晶子は多くの子を産みましたが、とても難産だったようです。『産屋物語』の中で、晶子は「妊娠の煩い、産の苦痛、こういう事は到底男の方に解る物ではなかろうかと存じます」(妻がこれ位苦しんで生死の境に膏汗をかい、全身の骨が砕けるほどの思いで呻いているのに、良人は何の役にも助成にもならないではありませんか)と書いています。晶子が、やみくもに夫を愛していたのではない、決して超人妻などではないことが分かる文章です。甲斐甲斐しさとして女性のプライドを糧に、晶子は苦悩しながら文学作品を生み出していったのではないかと……と、私には思えるのです。

もう一つ、晶子作品で忘れてならないのが、1904(明治37)年、日露戦争

の8月、日本軍が旅順の攻撃で1万5千人を失った時の『君死にたもうことなかれ』です。

ああおとうとよ君を泣く／君死にたもうことなかれ／末に生れし君なれば／親のなさはまさりしも／親は刃をにぎらせて／人を殺せとおしえしや  
弟に向かって愛情こめて「愛されている末っ子のあなたに、親が「人を殺せ」などと教えるわけがないでしょう！」と歌う絶唱……胸が熱くなります。しかし、掲載されると同時に「国賊」と非難されました。やんわりと晶子は手紙文で反論しています。

声名は高まりましたが、与謝野夫妻はいつも貧乏でした。晶子は、文学会で『源氏物語』他を講義しています。しわだらけの着物で講義していた——と、らいてうも書いています。その間に、先に書いた11人の子どもを悩みながらも育てたのです。

1911(明治44)年に平塚らいてうが「青鞥」を発刊しました。その折、すでに著名な歌人として知られていた晶子に原稿依頼をしています。書いてくれそうもない雰囲気だったのですが、晶子は創刊号に寄稿しました。「そぞろごと」(のち「山の動く日」と改題)です。

山の動く日来る。…(中略)…すべて眠りし女今ぞ目覚めて動くなる。

一人称にてのみ物書かばや。／われは女ぞ。／一人称にてのみ物書かばや。／われは。われは

《山の動く日がやって来た！ 抑圧されて眠っていた女性たちが今こそ目覚めて立ち上がる時です。

私は、一人称「私は」という言葉で物を書きたいのです》

同じく創刊号に平塚らいてうが寄せた「元始、女性は実に太陽であった」と同じく、全身を揺り動かすような胸を打つ言葉です。

夫を愛し続け、子どもに物語を創って聞かせ、妻として母として、そして仕事をする人間として、苦悩しつつもそれを文学へのエネルギーとして突き進んでいく力を持つ晶子。震災で『源氏物語』訳稿を全焼失した後も、また訳稿に取り組むという、不死鳥のごときワーキングマザーとして生き抜き、満63歳、狭心症のため生涯を終えました。

## 河原 徳子

- 徳島市生まれ
- 日本文学研究家
- 三重県生涯学習センター講師
- 「朗読文学サークル パティオ」(4部門)主宰
- 三重県立図書館・鈴鹿市民大学文芸学科・愛知県豊明市立図書館・安城市立図書館・知立市立図書館・菟野町文学講座・五十鈴塾文学講座・亀山市文学講座その他で、古典文学から近代文学まで講座講師を務める
- 鈴鹿市文芸賞選考委員
- 鈴鹿市文化振興ビジョン策定委員
- 主な著書『となりの文豪』(風媒社)



シリーズ「三重県の男女共同参画の最近の動きと、これから」第1回目

前三重県男女共同参画審議会会長 佐伯 富樹

第1回

第2次三重県男女共同参画基本計画の改定について

平成23年3月に第2次基本計画が策定され、今年の3月、この基本計画が改定されましたが、なぜ内容を改定する必要があったのでしょうか。

私たちの男女共同参画を巡る動きは、男女共同参画社会基本法にその源が求められます。この法律により、国は施策の総合的また計画的な推進をはかるために基本計画を策定し、都道府県は、男女共同参画推進条例を制定し基本計画も策定することになったのです。

県の推進条例は、男女共同参画に関する三重県の基本的な文書ですが、条例は、絶え間なく変化する社会経済の情勢や県の参画状況に個別に対応するのは困難です。このため具体的な施策を定めた基本計画を策定し、必要な場合は改定して対応します。また、平成27年に国の第4次基本計画が策定され、その内容を参考にすることも重要なことでした。

それでは、どのような社会経済の情勢の変化が第2次基本計画を策定した後に出てきたのでしょうか？改定された基本計画の重点事項のなかから、3点だけを取り上げてみましょう。

第1は平成23年に起こった東日本大震災の影響です。その後、熊本地震などもあり、避難所の運営を始めとして男女共同参画の観点からさまざまな問題点が提起され対策もでてきました。第2次基本計画にも「家庭・地域」の分野に「防災」の記述はありますが、引き続き、男女共同参画の視点から現場の防災や減災を考え続ける必要があり、また、基本方針を定める県や市町の防災会議に参加する女性の委員を増やす努力も必要と思われる。

第2はあらゆる分野における女性の活躍の推進です。平成25年に「日本再興戦略」が策定され、とくに雇用分野における女性の活躍を進める政府の政策が打ち出されました。これに応じる形で、平成27年には「女性活躍推進法」が制定されました。この法律によって、事業主また地方公共団体は、「女性の活躍推進」に関する取組の計画を定め厚生労働大臣に報告しますが、さらに都道府県は「女性の職業生活における活躍の推進」に関する施策の計画を策定することが努力目標になりました。このため、この推進計画を改定する基本計画のなかに取り入れることになりました。

第3は男性中心型の労働慣行の見直し、そして働き方改革の流れです。最近では、百貨店の休業日の増加やコンビニの営業時間の短縮など、働き方改革に新しい動きもでてきています。この男性中心型の労働慣行の見直しは従来から言われてきたことですが、いくら育児休業などさまざまな「子育て支援」や「両立支援」などの環境を整備しても、男性を中心とする残業などの長時間労働や転勤などが改善されないかぎり、男性にとっても女性にとってもワーク・ライフ・バランスを実りあるものにはできないからです。

次回と第3回は、三重県男女共同参画審議会の小川眞里子会長と私が、県の男女共同参画の移り変わりや現状について日頃感じていることをご紹介します。



執筆 佐伯 富樹さん  
(前三重県男女共同参画審議会会長)

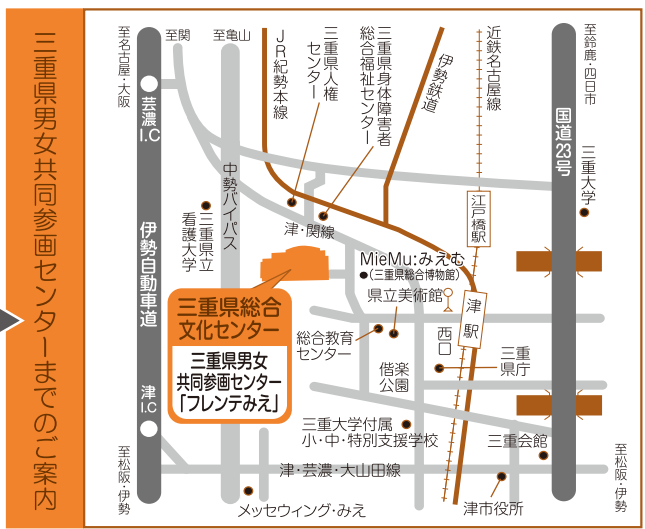
三重県の男女共同参画関係では、平成13年からアイリス21推進連携会議の副会長など委員として6年間、平成21年から男女共同参画会議の会長など委員を8年間務める。専門は国際法。三重大学名誉教授、三重中京大学名誉教授。

フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ



休館日 毎週月曜日  
年末年始 (12月29日から1月3日まで)  
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分  
■徒歩/津駅西口から約25分  
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分  
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター  
三重県男女共同参画センター フレンテみえ  
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地  
TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135  
URL http://www.center-mie.or.jp/frente/  
E-mail:frente@center-mie.or.jp

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど…  
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00~12:00	休館日 ※	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00~15:30		●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00~19:00		—	—	●	—	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室の案内 (切り取ってご利用ください)

